

沼田郡八木村洪水ニ付急場御救御歎書附

沼田郡八木村

覚

一去ル朔日洪水ニ付、本川筋大堤数ヶ所切損之内当村
向代石堤切込、石丸・細野・細田・皆川邊一面水漬、座上より
坐上式三尺或者四五尺位水上り流家・潰家等誠ニ急水
ニ而何レも山手邊人家へ逃込、真ノ命を助り候のミ御座候
別而中左郷へ当り候而高宮郡下野村・下町屋村石堤
始メ当村渡し場向大堤切込人家も流失潰家ニ相成、
一手水中ニ相成、川中江相挟れ稀ニ命を助り候程之義、
就而水上ケ仕候ものも御座候得とも、過半水揚之儘
川中ニ相成、差向中ニハ飯用無御座候、急飯鍋ニおよび
候ニ付、急場之處ハ私共初成立之もの共申値、色々与
立働、粥・麦ノ粉類を以口糊相凌せ候得共、成方之者共
逆も水漬損家地損等ニ而委細御見聞被成下候通之次
第二付、最早手術尽果行当り候義ニ御座候、依而
何共恐多次第二御座候得共、此余御上御慈悲を以危急
御執被成遣候ハ、追々家業とも取付、浮過之もの共ニ

おいてハ

日雇等ニ罷出候様相成、一統

御国恩之程難有狩り可申候、依水難之もの共内

難法厚薄三段之取分別紙帖面二御歎申上候間、
何卒御憐愍之程奉願上候、此段各様迄書付
を以御歎奉申上候、以上

戌六月七日

当分庄屋

庄屋 善三郎

忠左衛門

与頭 六兵衛

同 甚兵衛

同 平左衛門

沼田郡

御番組衆中様

二通出スひかへ